

関連項目：指導体制プラン②

共通理解を図り全職員で取り組む指導体制

目的

本校の児童は大部分はルールを守り楽しい学校生活が送られているように見えるが、家庭でのしつけなどが不十分で基本的な生活習慣づくりを一から学校でしなくてはならない児童や、学年が進むにつれて規範意識の薄れてくる児童がどの学年にもみられる。そこで、常に問題行動の早期発見に努め、大問題にならない内に指導を行う体制の充実をはかりたい。

内容

- 発生した問題行動に対して、全教職員で対応に当たる
 - ア 生徒指導と担任の協力による、発生した問題行動の正確で迅速な情報収集
 - イ 管理職・生徒指導担当・担任・保護者・児童による問題行動確認会及び、その指導
 - ウ 管理職や生徒指導など、担任以外からの積極的声掛けなど人間関係づくりと心の指導
 - エ 管理職からの施設面でのフェンス改善検討、用務員による庭木剪定で視界確保
- 問題行動を起こしそうな児童の情報を全教職員で共有する
 - ア 毎月の生徒指導委員会や教育相談日の活用及びそれによる情報の共有化
反社会的問題行動を起こす児童だけでなく、不登校傾向などの非社会的問題行動など、全ての先生方がその個にあった声掛け指導ができるように情報交換する。
- 未然に防ぐ心の教育を推進する
 - ア あいさつ運動・交通安全指導等の地域の方々から多くの支援
地域全体で子どもたちを見守っているよという雰囲気醸成する。
 - イ 道徳の日の家庭と一体化した指導
保護者への学習内容の事前のお知らせや、保護者からの手紙などを活用した学習指導
 - ウ 全校集会や人権集会での児童によるいじめ根絶の呼びかけ



成果

こうした取組をすることによって、同じ児童が同様の問題行動を起こすことはなく、保護者を巻き込んだ緊急指導の懇談会を開くこともなく、改善が見られた。15年間交通指導に関わってきた地域の方から、あいさつをする児童が増えてきているという評価もいただいた。